

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175300409		
法人名	株式会社 ワークサポート		
事業所名	グループホーム あさひ		
所在地	北海道紋別郡遠軽町大通南2丁目1-21		
自己評価作成日	平成29年6月1日	評価結果市町村受理日	平成29年8月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「笑顔あふれる暮らし」を日々の生活の中に自然に現れるよう、入居者様それぞれの意向、想いを汲み取りそれぞれが自分らしく暮らせるような対応に努めています。介護職員へは日々向上心を持って務められるよう、また専門職への質の向上が図れるよう、地域での研修や町外の研修へも積極的に参加できるように支援し、入居者様へ還元できるように努めています。立地している環境からは商店街のため、買い物や商店街のお祭り、千人踊りの観覧等も入居者様に負担を少なく参加してもらえます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvoynoCd=0175300409-008
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成29年7月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から10年、重度化する利用者が多い中、なるべく天気の良い日は、気分転換を含め馴染みの商店街を散策します。「笑顔あふれる暮らし」を基に、この思いは職員のケアの随所に表れています。また、長期入院等の理由で入退者が多く、落ち着かない状況がありますが、職員は、利用者の願いを見定め、一人ひとりが満足できる方法で叶えるように心がけ、利用者のできる事を奪わないようにチームワークで支援しています。利用者の気持ちを優先するように、本人本位の介護になるようにカンファレンスで十分話し合わせ生活の質を高める努力をしています。地域の祭りへの見学や利用者と一緒に清掃活動に参加するなど地域との協力関係を構築しています。管理者自身も、日頃より職員とのコミュニケーションをとるように心掛け、何でも聞ける雰囲気作りにも努めています。また、問題が生じた場合は職員と一緒に解決に向けて話し合い、職員一人ひとりの キャリアアップをサポートしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は見えやすい場所に掲示し、新人研修の際には理念について、日々のケアに繋がられるよう説明している。また、施設内研修の内容に合わせて、理念についてもふれ、日頃より理念への意識を高めるよう努めている。	「笑顔あふれる暮らし」の理念は、管理者が6年前に誰でも理解ができ利用者本位になるよう作成し、職員は、どうしたら利用者に笑顔が絶えないような日々を過ごすことができるのかを考えケアに努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、清掃活動や花壇の花植えなどへも積極的に参加し、交流が図れるよう努めている。	月1回、利用者と一緒に清掃活動を通して町内会の交流を深め、事業所の理解に繋がっています。また、高校生のボランティアとの交流は利用者にとって楽しみとなっています。見学も受け入れ認知症の事業所として理解を得る機会を設けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症の方々の状況を知ってもらい、また、地域の方からの相談等があるときは、知り得る限りの情報提供に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回は開催し、委員の方からの助言については真摯に受け止めできる限り迅速な対応心掛けている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、町役場の会議室を利用しながら定期的開催しています。事業所の状況報告、事故報告、行事報告等を行い、利用者の生活の状況を知ってもらうことで運営に関しての具体的な意見をいただける関係となっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から事業所の実情を報告し、助言や意見をもらい、支援の適正化、向上に努めている。	運営推進会議への担当者の参加をいただくなど、良好な協力関係が築かれています。また、利用者の状況や空き室情報なども共有すると共に、相談もこまめに行い、利用者の支援に反映しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束、虐待についてのマニュアルをいつでも閲覧できるよう、各ユニットに設置し、勉強してもらおう機会を設けている。また、夜間は防犯の観点から施錠しているが、早朝にはあけている。	新人教育で、身体拘束の内容とその弊害について伝え、利用者一人ひとりの優先すべきことを再確認し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。また、毎月のユニット会議やその都度問題が生じた場合は話し合いを行ったり、個別に指導もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修参加、内部研修は繰り返し行い拘束、虐待に関してはその都度振り返り勉強してもらう機会を設けている。また、介護職としてはもちろん、一地域住民としても、疑われることを知り得たときには通報の義務についても指導している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学んだことを施設内研修としてスタッフ全員に周知し制度についての理解を深める取組をしている。また、弁護士等の関係職種に制度について相談、アドバイスをもらい活用できるよう努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に細かな部分にもふれ、説明し、理解、納得を得ている。また、改定の際には再度契約、または同意書をもらい、説明している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内には意見箱を設けて、契約の際の説明している。また、面会の際にも要望や意見を聞き反映させている。運営推進会議等で報告している。	利用者とは日頃の関わりの中で、意向を把握しています。また、家族の来訪時には、必ず声をかけて要望や意見などを聞くようにしています。要望は、実行できることは速やかに改善しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で、随時意見交換し、要望や提案についても全体で話し合い、反映できるよう努めている。	スタッフ会議や個別に意見や要望を聞いています。また、意見・提案がしやすい環境が作られ、毎日の申し送りでも話し合いが行われ、情報を積み重ねることで、サービスの向上に繋がっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握した上で、適宜給料の見直しを行っている。また、外部研修等にも積極的に参加できるよう努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時全体会議等で内部研修を実施し、外部研修についても参加の機会を設け報告してもらい、全員が共有できるように努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の同業者の定期的な勉強に参加してもらい、互いの困難状況についても、意見交換し運営に生かせるよう努めている。参加できないスタッフへも周知している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に不安なこと要望などを把握できるような傾聴できる限り本人の要望に応え、本人の不安のないよう、ご家族とも良く話し合い、時には協力をもらいながら徐々に慣れてもらうよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様がどのようにホームで生活してもらいたいのか、細かな援助面についてもご家族から意見をもらうようにし、生活状況についても随時報告していくことを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	定期以外にも変化のある時などは状況に応じてアセスメントし、必要に応じたサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各々の残存能力に合わせて、茶碗洗い、洗濯物干し、たたみ、食事の準備など行ってもらい、時には教授してもらう場面もある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況を伝え、ご家族にも必要に応じて協力もらいながら、本人が安心して生活できるよう、行事の際にも積極的に参加してもらえよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院やお寺などへは継続して行けるよう援助したり、本人の友人等が訪ねてきやすい環境づくりに配慮している。	お墓参りやお盆、お正月などの外泊・外出等の本人希望があれば、家族の協力を得ながら支援しています。また、利用者の状況に応じた外出など、馴染みの関係が途切れないように取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が自由に集えるリビングがあり、入居者同士のいい関係づくりができる場として定着している。そこでのコミュニケーションにはスタッフ入り談笑できるよう配慮している。また、入居者同士の居室の行き来も自由に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も雑巾等の提供をしてくださったり、気軽に立ち寄ってくれることもあり、その際にご家族の近況等の相談を受けることもある。また、入院先へお見舞いに行き、本人、ご家族との関係性の継続に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の言葉や思いを汲み取り、スタッフ全員が把握できるよう生活記録等に記載し情報共有に努めて、日々のケアに反映できるよう援助している。	本人や家族から聞いた利用前の生活歴などを基に、職員はできるだけ利用者とは1対1で話を聴く時間を持ち、利用者同士の話にも耳を傾けることで、一人ひとりの思いや要望を汲み取り職員間の共有を進め、できることの実現に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際にご家族、ご本人、在宅時の担当ケアマネ等からこれまでの情報収集に努め、現状と合わせてサービス提供に反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に記録している生活記録や本人の変化する状況を日々観察し、コミュニケーションから本人の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族面会の際には、状況報告し、特に変化が見受けられる際には連絡を入れて、相談したり、医療面については訪問看護や、訪問診療の際にその都度相談し、対応についての意見をもらうようにしている。	担当職員からの意見や日々の状況を基に全職員によるモニタリングを行い、利用者の変化を捉え、家族からの要望と協力医の意見も含め介護計画が作成されています。また、毎月の会議の場で利用者一人ひとりのカンファレンスが行われ、現状に即した見直しが行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を個別の生活記録に記入し、月に一度の個別接遇として各ユニット毎に個別の対応について検討し、情報共有に努めて統一したケアの実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況の把握に努め、その都度必要なこと、要望の見極めを行い必要に応じて随時支援に繋がられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・地域ボランティア等と交流し、意見を交換出来る機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの希望するかかりつけ医への受診を基本として、ご本人の身体状況にあわせて、必要であれば訪問看護等と相談しながら連携をはかり、本人、ご家族ともに納得されて受診している。	利用者の希望するかかりつけ医への受診は事業所が対応しています。遠方への受診は家族が対応しています。訪問看護師により健康管理が行われ利用者や職員の安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の他にも入居者の異変等があればいつでも相談にのってもらい、適切な医療機関と連携が図れるようにサポート、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、添書として、日々の生活が良くわかるものを用意し、近況がわかるようにしている。また、入院中も定期的に訪問し現状の把握に努め、医師、看護師から情報をもらい退院に向けての支持を対応についても指導をもらえるよう関係づくりはできている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にはご本人、ご家族へ事業所としてできることを伝え、状況の変化に応じて、関係機関と連携を図り、必要な支援をできる限り行えるよう努めている。	契約時に重度化や終末期、看取りケアについて指針をもとに、常勤医師の配置がないことから看取りができないため、協力医療機関や看護師との連携を取りながら、必要に応じて健康上の管理等に対処する事を利用者や家族に説明しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応についての研修やマニュアル等を勉強する機会を設けたり、消防署員による救命救急の講習を受け、実践に役立てるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回、夜間、昼間の想定で行い、全職員が把握できるよう、1F,2Fがお互いの動きを確認できるよう見学し反省点、問題点の改善に取り組めるよう行っている。また、地域で行う避難訓練にも入居者様と共に参加し災害に備えている。	消防署の協力のもと、夜間想定で避難訓練や水消火訓練等を行ってまいります。避難誘導の職員を抜き打ちで指名し避難訓練を実施しています。手作りで布団を寝袋のように改良し担架に活用しています。	停電などのあらゆる災害対策、訓練をすることで利用者の安心、安全に繋がる事を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフが入社した際に行う研修にはプライバシーや入居者様の尊厳についても勉強してもらい、全体会議等でも繰り返し勉強し、対応の徹底につとめている。	一人ひとりを尊重し、さり気ない声かけで利用者に羞恥心を感じさせないよう、職員は常に自分のケアを振り返り利用者の尊厳を守るように努力しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話から、希望や思いを汲み取り、本心が聞きとれるよう工夫し対応している。自己決定できるような場面では、複数から選択できるよう提案している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各々の生活ペースは確立されており、それに合わせた対応を行っている。その日の気分や体調によって変化する場合も柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容に関してはご本人のペース、馴染みの場所に通えるよう、一人ひとりに合わせた対応を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや味見、作り方を教授するなどの働きかけを行い、入居者様も共に作るという状況下で調理を行い、後片付けも役割として行っている方がいるので、スタッフ見守りながら共にしている。	利用者と職員と一緒に調理や後片付け等ができる事を行っています。誕生日や行事には手作りオードブルやケーキ、家族との外食は利用者の楽しみになっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量の記録を残し、個別に量や形状を合わせて提供している。また、摂取困難な場合、好みのものや摂取しやすい工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは自力でできるところまで行ってもらい、できないところ、磨き残しがないか確認し、必要に応じて支援し、状況に応じては歯科受診等の検討をご家族へ報告し、受診対応をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを知るために排泄の記録を残し、失禁が多い方でも、誘導で減らしていき、紙パンツの時間を減らす等、それぞれにあった対応をしている。	利用者の習慣や行動、表情等を見逃さず、本人希望で自室でのポータブルトイレを使用している利用者もいますが、出来るだけトイレで排泄を行い自立に繋げています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないよう配慮し、必要に応じてヨーグルトなどの乳酸菌を摂取できるよう配慮している。また、運動を促し、楽しみながら行えるようレクリエーションの際にも考慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する日をご自分で決めている方がいたり、また、こちらからの声かけで入浴される方もいますが、体調、気分により、自由に変えられるよう柔軟な対応をしている。	利用者の希望日に入浴したり、足浴、血行を良くする為にマッサージをしたり、薬用入浴剤などを使用し利用者の体調に配慮した入浴を支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯でも体調に応じて休めるよう配慮し、夜間帯の排泄誘導については安眠状態を確認し、妨げないように誘導を心がけ、眠れない等の訴え時には原因を見極め、合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの服用している薬の説明書については誰でも閲覧できるように設置しており、薬の変更等があれば速やかに周知し、経過観察を詳細に記録するよう対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみを把握し、継続して行えるよう個別に対応し、その中でも家事を役割としている方々もあり、できることが継続できるよう対応している。また、気分転換に外でティタイムをとったり、散歩等を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	民生委員の方やボランティア、ご家族等の協力を得ながら、隣町のチューリップ公園へ出かけたり、地域の行事等の見学なども積極的に声かけしながら、本人の希望にあわせて支援している。	事業所前を通る御神輿や千人踊りを見物したり、花火大会、家族と温泉に出掛けています。利用者の希望を叶え、気分転換になるよう出来るだけ外出の機会を設けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持しており、自分で決めた買い物を持定期的に行っている方もおり、自由に好きな買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からご家族、知人等へ電話してほしいと訴えがあれば、電話でお話したり、手紙等が来た際も本人へ渡し、読めない時は読んで聞いてもらい、返事が書きたくても書けない時は電話にて対応するなど、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたお花を飾ったり、装飾物を入居者様と共に作り、飾るようにしている。また、不快な臭いや音がないよう配慮し、湿度や温度にも気を配るよう配慮している。	季節ごとの行事の飾り付けや写真、利用者手作りの貼り絵やちぎり絵が飾られています。新聞を読んだり縫い物等をしたり、利用者一人ひとりが一日一日穏やかに過ごせるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性の把握に努め、気兼ねなく過ごせるよう、配慮しその時々によっても変化があるので、柔軟な対応をするためにも、現状の把握努めソファの並び等に工夫したり、座る席の配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等をできるだけ用意してもらい、居心地が良いと感ぜられるよう、ご本人にも協力を得ながら、配置している。	使いなれた筆筒やテレビ、仏壇等が置かれています。携帯を持っている利用者や決まった日にお坊さんが来る利用者もいて、これまでの生活と変わらず過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて手すりを増やしたり、誤って洗剤等を誤飲しないよう、危険な物は手の届くところには置かないよう配慮している。		